

実習 1 生活の質を上げる工夫を学ぶ（疑似体験歩行訓練含む）

大島眼科病院（福岡市） 山田敏夫

根本眼科（常陸太田市） 根本加代子

近年、視能訓練士に求められる業務も拡大し、その中でロービジョン児・者へのロービジョンケアを専門に行っている眼科も増加してきている。これからの視能訓練士は、視機能の評価・訓練のみならず、ロービジョンに対する教育や生活など社会との関連性についても十分な知識が必要となってきている。このようなことから実習 1 の目的として、次の 2 点を挙げた。

- ①ロービジョンの疑似体験を通してロービジョン児・者の読みや書き、食事、買い物、歩行など、学習・日常生活の動作を想定した不自由さ、不便さを学ぶ。
- ②視能訓練士としてどのようにしたら、ロービジョン児・者の生活の質を上げられるか、その工夫を考える。

実習を始めるに当たり、参加者に眼を閉じてもらい、自分自身が全盲状態として朝起きてからの行動を頭の中でシミュレーションさせた。その後、用意しておいたシミュレーション眼鏡を近距離視力表・アムスラチャートを使用し各々測定させ、手動弁から 0.3 までの眼鏡または視野狭窄 3 度から 10 度の眼鏡を装用し、自分の席から講義室外の廊下を独歩で移動体験させた。アイマスクでも同様に行った。前後席の 4 名を 1 グループとして、疑似体験する教材（色紙・物差し・さいふ・ランチョンマット・アイマスク・電卓・巻尺・ストップウォッチなど）シミュレーション眼鏡で確認させた。疑似体験として、折り紙を折らせた。また用意しておいた用紙のマス目に書字、拡大鏡（縮小ルーペ）を使用しての読字やタイポスコープ・サインガイドの使用について説明した。さらに日常生活での飲食を想定しての紙コップに水を注ぐ工夫や日常生活用具を使用しての方法を実演した（講義室の関係でモデル 1 名）。食事での工夫ではランチョンマットの色の選択、箸・さじ・フォークの色の選択、食事素材の視認性シミュレーションなどを行った。買い物の工夫では、硬貨の弁別（1 円、穴なし 5 円、穴あき 5 円、ギザ付 10 円、ギザなし 10 円、穴なし 50 円、穴あき 50 円、100 円、500 円）紙幣の弁別（1,000 円、2,000 円、ホログラム 2 種類の 5,000 円、10,000 円）の実技を行った。また買い物に便利なさいふの作り方についても実物を見せ説明を行った。

実習のまとめとして、相談事例を 2 例挙げた。

- ①急激な視力低下で今までのように家事ができなくなった女性。
- ②視野障害で家庭の中でも生活がし辛くなった 50 代男性。

最後にロービジョンケアを行うための「あ」「い」「う」「え」「お」

「あ」：愛・愛情 「い」：命（眼）の大切さを知る 「う」：うそをつかない

「え」：笑顔 「お」：思いやりの心をずっと持ち続けること

ロービジョンケアを行うために視能訓練士の力が今、求められていることを自覚する

こと！それが最も大切なことである。